

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人福岡教育大学

1 全体評価

福岡教育大学は、有為な教育者の養成を目的に掲げている。ミッションの再定義において、実践型教員養成機能への質的転換を図り、我が国の学校教員の質の向上に貢献することを宣言し、第3期中期目標期間においては、国民及び地域社会からの一層の期待に応えるため、義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域の拠点的作用を目指すことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、外部評価を活用した広報活動の強化を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 学生の到達状況や平成30年度までのカリキュラムの実施状況等を基に検証を行い、それらに対応した令和2年度からのカリキュラム改訂案を策定するとともに「大学院の新たな教育研究組織等検討委員会」にワーキンググループを設置し、令和3年度設置を目指し新たな教職実践専攻（教職大学院）のコース及びカリキュラムを検討しているほか、平成28年度に導入した実践即応型の教員養成高度化のプログラム（3年プログラム）の成果を検証し、その成果を教職実践専攻（教職大学院）の拡充に向けた新たなカリキュラム案に反映している。（ユニット「教員組織改革及び実践型教員養成機能への質的転換による教員就職率の向上」に関する取組）
- 学生ボランティア活動の活性化に向けて、「学生ボランティア活動認定システム」を活用して認定するそれぞれの評価段階における学生の資質・能力について分析し、システムの改善を行っており、これらの取組の結果、教職を志望する4年生のボランティア経験率は100%を達成しているとともに学生ボランティア活動で培われる資質・能力について分析し、教員育成指標モデルとの教員育成指標との対応状況を確認しているほか、これまでの取り組みを総合的に検証し、今後も継続的な改善を図ることができるように検証・改善のサイクルを確立している。（ユニット「学生ボランティア活動の推進による実践型教員の養成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成30年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 外部評価を活用した広報活動の強化

平成30年度に実施した広報業務に係る自己点検・評価及び外部有識者の評価を念頭に、改善可能な項目を検証し、広報発信の増加及び学生の積極的な参画の取組を実施した結果、プレスリリースを積極的に発信し、広報に努めプレスリリース数が9件（対前年度比150%増）となるとともに学生を積極的に活用する方策として、学生と大学出身の先生方との座談会を開催し、令和2年3月発行の広報誌の特集として掲載しており、これらの取組を受け、次年度の年度計画において、実施内容について大学の価値を高める戦略的広報の実施について検証することとするなど、外部評価を受けることで、広報業務の改善をする体制を整えている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 先導的モデルとなる教育研究活動

各地区の附属学校が取り組んでいる研究に関して、附属学校の校長経験者や附属学校の研究に携わった教員が担当する科目を中心に研究の成果を反映し、附属久留米地区におけるICT活用に関する研究内容をシラバスに明記している。また、附属学校の研究成果に関して、地域の教育委員会や義務教育諸学校における活用状況を調査し、有意性を確認している。その結果、附属学校がその研究成果を地域の教育改善に有意性を確認し、教員養成へ還元する体制を確立している。